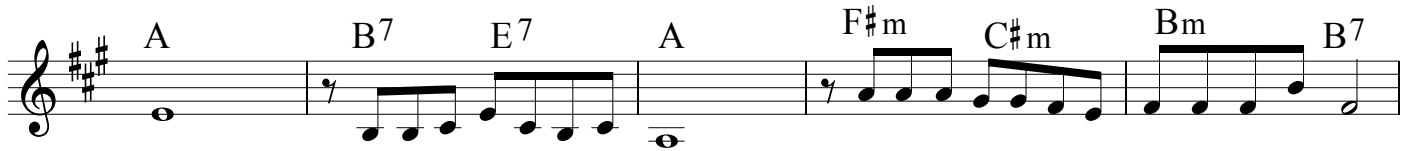


# 桃の花

門倉 さとし 作詩  
神野 和博 作曲



かぜのなかで つぼみがゆれる かぜのなか  
ひかりのなかで はながゆれる ひかりのなか



で つぼみがゆれる あわいピンクのくちべにを  
で はながゆれる あおいそらをふたいにして



はじめてひいた 少女のように ながいふゆに  
ゆめをおりだす おどりこたちが はるのたよりを



ほほをそめて ふるえながら つぼみがひらく  
はなびらにして りょうせんをうめ はながかお



くる ころやさしい ふるさとのひとのおもい  
はたらきものの ふるさとのひとのおねがい



い が あふれるように  
い が ひろがるように

1 風の中で つぼみがゆれる  
風の中で つぼみがゆれる  
あわいピンクのくちべにを  
はじめてひいた 少女のように  
長い冬に ほほを染めて  
ふるえながら つぼみがひらく  
ころやさしい ふるさとの  
人のおもいが あふれるように

2 光の中で 花がゆれる  
光の中で 花がゆれる  
あおい空を 舞台にして  
夢を織り出す 踊り子たちが  
春のたよりを はなびらにして  
稜線をうめ 花がかおる  
はたらきものの ふるさとの  
人のおねがいが ひろがるように